

こども特派員が行く!!

このコーナーは、小・中学校の子どもたちが自分たちで編集・発行する「特派員」となり、有田市の良さを伝えてくれます。今回のこども特派員は、夏休みにオーストラリアケアンズへ語学研修に行った(上段左上から)川嶋悟史さん、金川莉温さん、三家那奈珠さん、橋本愛音さん、柴山莉子さん、(下段左下から)池田葵さん、皆岡由梨音さん、森川萌波さん、吉田さやかさん、九鬼正伍さんです。

※紙面の文章及び掲載の写真はこども特派員によるものです。



ケアンズで得た宝物

私たち10人は、8月17日(月)から25日(火)までオーストラリアケアンズに行きました。今回の研修では一大家族にひとりずつホームステイしました。そこで感じたことは「言葉が伝わらないもどかしさ」でした。ホストファミリーとの生活の中で「ただいま」すら英語で言えなかった時のもどかしさは初めて感じたものでした。それでも、ケアンズの人たちは、私たちのことを理解してくれようと努力してくれ、とても親切でした。

コミュニケーション

英語は完璧に話そうとするのではなく、積極的にコミュニケーションをとることが大切だ。ケアンズの人たちは、みんな優しく、ジェスチャーや単語で理解してくれた。「言葉が通じなくても、気持ちには伝わるんだ」と思った。



みんなでランチ

授業は楽しい

ケアンズハイスクールでは、授業ごとに教室を移動し、ほとんどの教科で教科書を使っていなかった。また、美術の



楽しく英語の勉強

世界遺産へ

グレートバリアリーフにあるグリーン島へ行った。船が着いて島に降りると、そこは目をみはるほどきれいな海が広がっていた。島の人々はみんなホストファミリーの知り合いで、とても親切な人たち

ケアンズの街並み

ケアンズは海、夜空、景色が綺麗で見るものすべてが新鮮だった。日本にはない珍しい動物や植物を街中で見ることができた。野生のワラビーがいて、人と自然の調和がとれた美しい街並みだった。南十字星を見るのが感動した。

ホストファミリーと

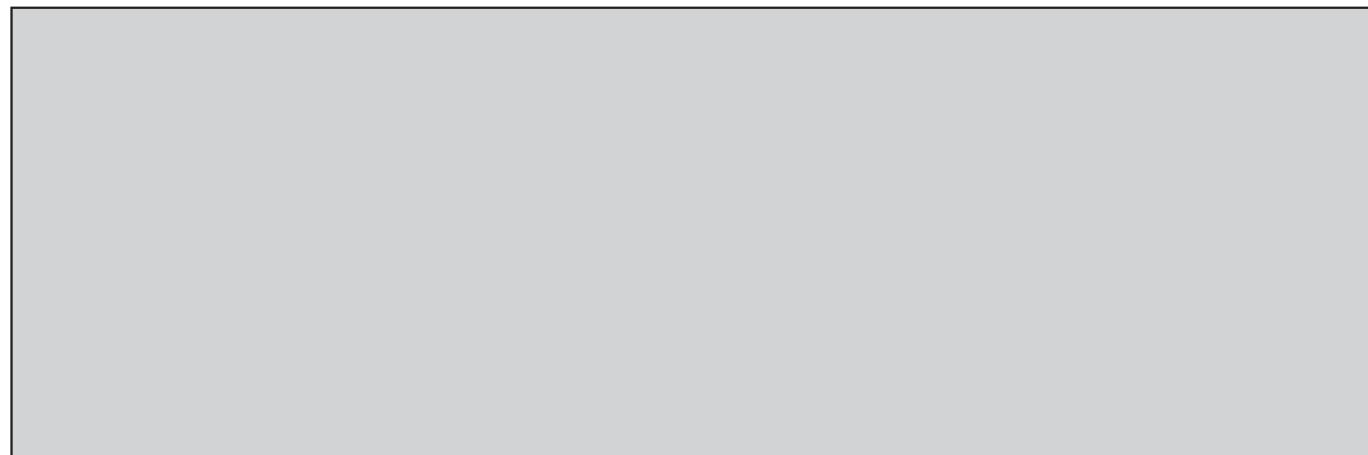
ホームステイ先の家族と一緒に結婚式に出席させてもらった。広いお庭でパーティ形式で行われ、牧師さんの前で指輪の交換、手紙を読んで涙を流したかと思えば、みんなでダンスをして盛り上がった。とても感動的で、すごく幸せそうだった。なかなか体験できないことなので、ホストファミリーには「感謝」。この思い出は、私の一生の宝物になった。



ホストファミリー

今回ケアンズに行って、日本とは違う文化や生活を体験することができました。そんな中で、相手の言っていることがわからなかったことが多々あり、自分たちの英語力の未熟さを実感しました。ケアンズでの貴重な体験は私たちの宝物となりました。この宝物をもっとと輝かせるためにこれからも勉強を頑張っていきたいと思えます。

広告



龍谷大学生 持ち込み企画

有田市 縁側発見新聞 No.06

このコーナーは、地域の課題解決について研究している龍谷大学政策学部の学生の皆さんが取材しました。有田市でのフィールドワークなどの活動を通じて感じた「縁側」の魅力も多くの人に伝えるため、学生自ら取材を行い、記事を書いています。今回は、糸我町で農業を営まれ、地域の活動にも尽力されている山崎さんご夫妻にお話を伺いました。

※ここでの「縁側」とは、「ホッとできる自分の居場所」という意味です。



山崎 佳彦さん(右) 規子さん(左) 糸我町在住

癒しの縁側

私たちはみかん農家の山崎さんご夫妻にインタビューを行った。まず最初に迎えてくださったのは奥様の規子さんで、彼女にとつての縁側は「田んぼの学校」だと教えていただいた。夫の方がよく知っているからと、佳彦さんをお話聞くことができると二人からお話を聞くことが出来た。佳彦さんはみかん農家だけでは食べていけなかった時に、ハウスでのコデマリ(小手毬)作りも始められたほか、自家用にお米の栽培もされている。そして今回縁側として紹介していただいた田んぼの学校もその延長として始まった。田んぼの学校とは糸我小学校の子どもたちと協力して合鴨農法でお米を育てる行事のことであり、現在では毎年



田んぼの合鴨たち

恒例で行われている。佳彦さんはその田んぼの学校の校長先生なのだ。佳彦さんは子どもたちから「彦ちゃん」の愛称で親しまれており、通りに挨拶をしてくれるという。今年もまた新たな子どもたちとの出会いがあり、佳彦さんも規子さんもまるで毎年孫が増えていくようだととても嬉しそうに話していた。

また、お話を聞いているとお二人が繋がりをお話している様子が見え、例えば、自家用に作ったお米を独り立ちをした娘さんや遠くに住んでいる親せきに送ったり、ご自宅では留学生を受け入れたりしている。それを聞きながら素直で語る山崎さんがとても素敵であった。このようにお二人にとって地域の子ともたちと交流を深めながら癒しを与えてくれる田んぼの学校は毎年地域や年代を超えたたくさんの繋がりを生む場所になっているのではないだろうか。



子どもたちと地域の人々が協力して育てた田んぼ

うか。そして、田んぼの学校はこれからも人に癒しを与え、人と人を繋ぐ掛け橋のような縁側であり続けてほしい。実際に見せていただいた田んぼの学校では合鴨たちの可愛らしい様子に私たち全員が心を奪われ、さらに子どもたちが頑張っている姿も、列もバラバラな田んぼが、より人を引き付ける要素になっているように感じた。そして私たちは山崎さんの住んでいる地域のコミュニティの密接さに驚かされた。ご近所さんや地域の子ともたちが顔を知り、尚且つ挨拶やお話が出来るといふのはとても羨ましい地域の在り方である。田んぼの学校はその中でお米・合鴨・子どもたちなど様々な成長を見ることが出来る素敵な縁側であると思う。



左から鳥本真帆、仁木貴康、佐々木悠菜、菊澤唯

広告

